

横浜市営交通のはじまり

激動の時代を乗り越え



市電開業を祝い、
花電車が街を彩った。

横浜市発展記念館所蔵

1921

大正10年
横浜市電気局誕生〔所在地：滝頭〕

この年の4月1日、横浜電気鉄道が運営していた路面電車事業を公営化することで、市営交通の歴史はスタートしました。開業当日は朝から花火があがり、夜にはイルミネーションで飾られた花電車が市内を彩りました。



関東大震災で被災した市電、
全線不通に。

横浜市発展記念館所蔵

1923

大正12年
関東大震災発生〔マグニチュード7.9〕

開業から2年後の大震災で市電は半数以上の車両を失う等、甚大な被害を受けました。市民の不安を少しでも和らげようと、職員は被災しながらも復旧作業に従事。わずか1か月後に一部運行再開。見えそうな台車を再生した屋根のない「バラック電車」18両も活躍しました。

写真は1933年



1928

昭和3年
市営バス開業

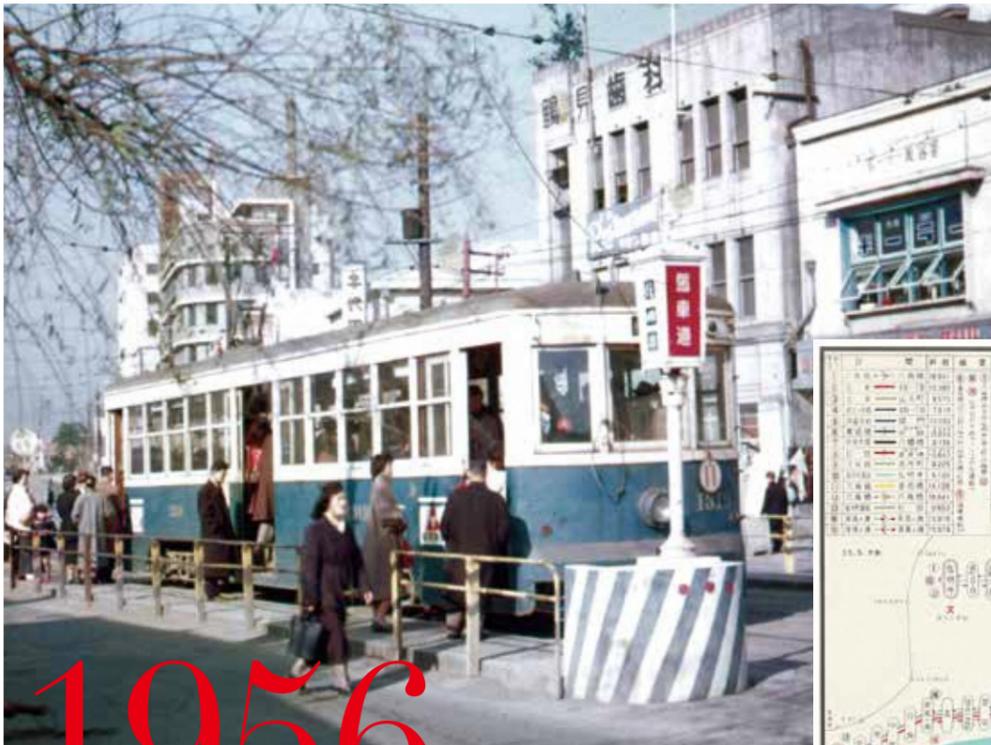
大震災からの復興事業が進む中、線路がなくても運行可能なバスが注目され、横浜市営乗合自動車(市営バス)が開業しました。当時は14人乗りフォードA型。運転士と女性車掌が乗車していました。

ボンネットバスのバスガールは、
女性たちの憧れの職業だった。

高度経済成長と市営交通

市電の隆盛とトロリーバスの登場

戦災復興を果たした市電は
新路線も開通、
最大五一・八kmの長さとなった。



横浜市歴史記念館所蔵

1956

昭和31年
馬車道停留所

経済成長とともに市電の路線規模は拡大し、
昭和34年頃には最盛期を迎えました。
1日30万人以上の方が利用する
横浜の主要な交通として活躍しました。



電車運転系統図〔1960年〕



写真は1971年

1959

昭和34年
トロリーバス開業

市電最盛期だったこの年、
道路に張った架線から集電しレールなしで走る
トロリーバスが登場しました。

トロリーバスは、十三年にわたって
街の賑わいをつくった。



横浜市史資料室所蔵

1964

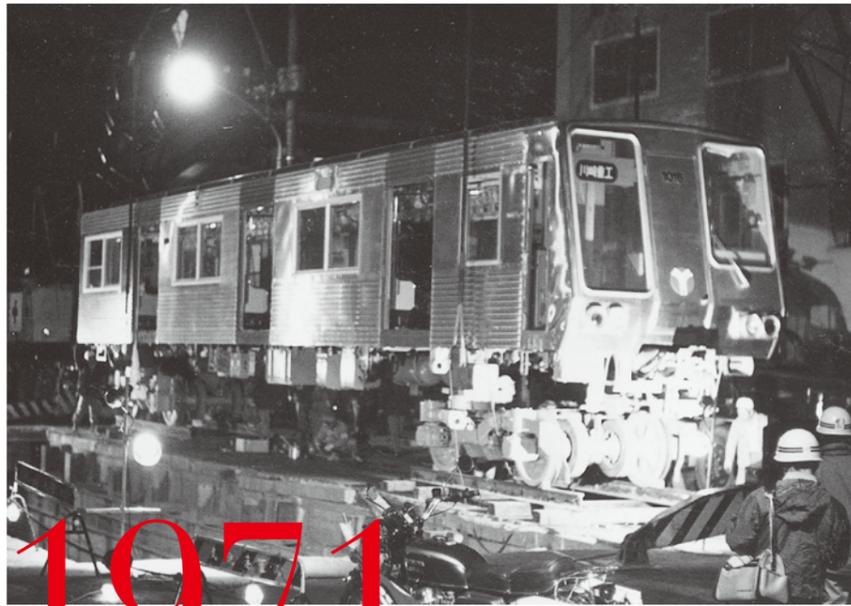
昭和39年
桜木町駅前

モータリゼーションにより、自動車が増。軌道敷地内での自動車交通を認めざるを得ず、市電の輸送能力は著しく低下していきました。

モータリゼーションの波が、
市電に影響を与えた。

市民の足 世代交代

半世紀の役目を終えて



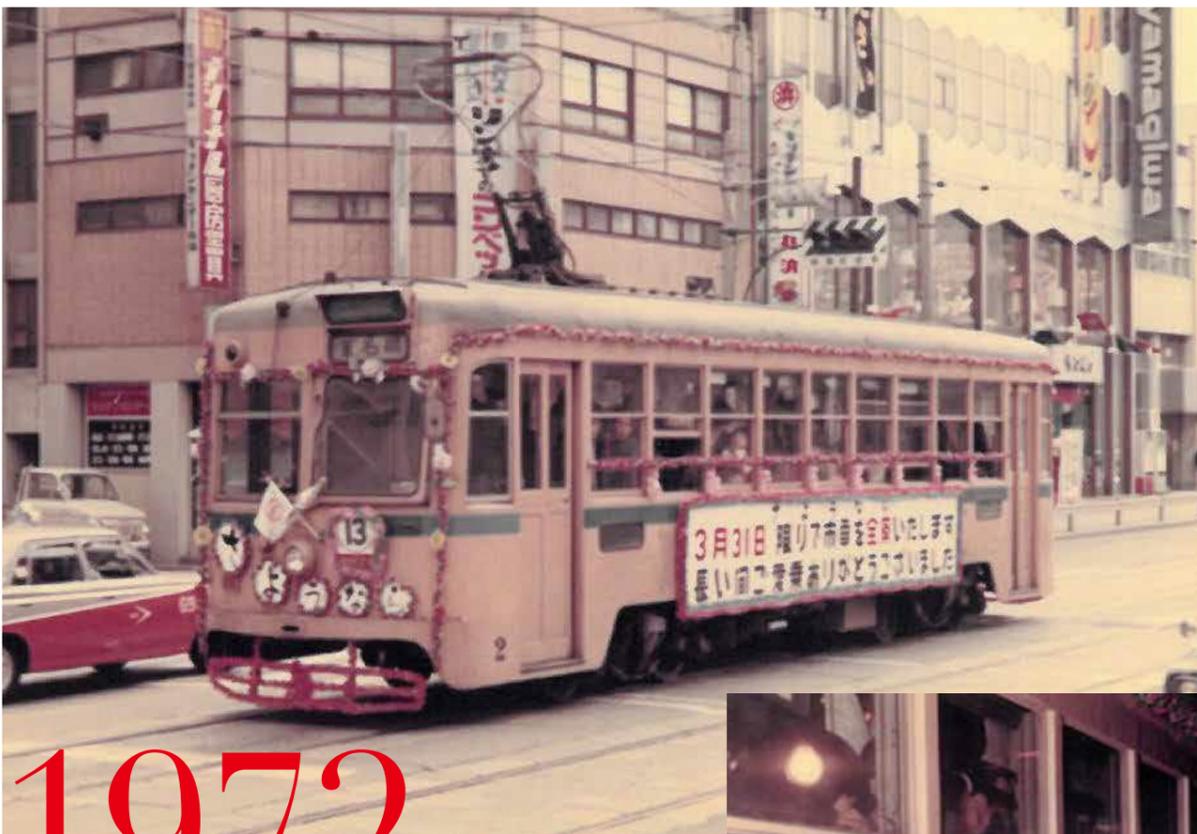
地下鉄開業に向けて、
夜を徹した準備が続いた。

1971

昭和46年
地下鉄搬入

地下鉄の開業は、横浜の都市づくり将来計画の構想の中心として提唱された六大事業のひとつでした。地下鉄工事建設は、複雑な地盤や工事費削減、道路交通の規制など、多くの課題を解決するため、さまざまな工法を取り入れながら進められました。

五〇年余り親しまれた市電、
地下鉄開業の年に役割を終えた。



1972

昭和47年
市電最後の運行

急激な経済成長による人口流入とモータリゼーションに飲み込まれ、市電とトロリーバスは廃止されました。廃止直前には、飾り付けられた車両が市内を走り、多くの市民に惜しまれました。



横浜市営地下鉄 ブルーライン・グリーンラインの開業

1972

昭和47年
市営地下鉄ブルーライン開業
〔伊勢佐木長者町～上大岡間〕

日本最初の鉄道が開通した年から100年目にあたる年の12月16日、地下鉄が開業しました。その年の9月には台風により駅構内が天井まで冠水、大きな被害を受けましたが、懸命な復旧作業の末、年内開業という悲願を達成しました。



地下鉄ブルーラインが
伊勢佐木長者町
～上大岡駅で開業。

横浜市史資料室所蔵



上永谷、戸塚、新横浜、
あざみ野、湘南台へ延伸

1976 1993

昭和51年
開業間近の上永谷駅

平成5年
開業間近のセンター南駅

横浜の街の発展とともに、上永谷、戸塚、あざみ野そして湘南台へと地下鉄ブルーラインも延伸していきました。現在40.4kmを運行しています。

中山駅～日吉駅を結ぶ地下鉄
グリーンラインが開業。



2008

平成20年
市営地下鉄グリーンライン開業〔中山～日吉間〕

横浜北部を東西に、中山～日吉駅間13kmを運行する地下鉄グリーンラインが開業しました。リニアモーター駆動で急勾配を快走。最高速度は時速80kmでリニア地下鉄では国内最速です。

横浜市営バス

市民の暮らしと 国際都市・横浜のにぎわいを支える



市営バスは鉄道駅と連携したきめ細やかな路線網を拡げ、市民生活を支えています。



2階建てバス、ブルーラインは都心臨海部の発展を見守った。

1984

昭和59年
ブルーライン運行開始

2階建てバスは3.5mの高さから「みなとヨコハマ」が眺望できるバスとして1996年の廃止まで活躍しました。

2005

平成17年
「あかいくつ」運行開始

横浜中心部の観光地を巡る路線バスが、3月28日運行開始しました。一般公募で「あかいくつ」の愛称が決定。特徴ある車体は街の風景としても親しまれています。

観光名所を走る「あかいくつ」は、街の景色もつくっている。



国産初の連節バス「ベイサイドブルー」、横浜駅から海沿いを走る新路線で運行開始。



2020

令和2年
BAYSIDE BLUE運行開始

横浜都心臨海部の回遊性向上のために、新路線バスが開通。横浜駅東口からパシフィコ横浜や新港ふ頭、赤レンガ倉庫、大さん橋、中華街などを經由し山下ふ頭へつながります。全長18m、定員数113名、国産初の連節バスが採用されました。